

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)センチュリー東林間 新築工事	階数	地上7F
建設地	神奈川県相模原市南区東林間4丁目5820番15	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	110人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年3月14日
敷地面積	758㎡	作成者	株式会社 東建一級建築士事務所
建築面積	415㎡	確認日	2019年3月14日
延床面積	2,388㎡	確認者	株式会社 東建一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
町並みから突出することのないデザインに努め、周辺環境と馴染む建築計画とした。		
Q1 室内環境 住戸内の快適性を確保するために温熱環境(外皮断熱性能)、空気環境(F☆☆☆☆建材、自然換気窓)の向上に努める。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い設備配管の採用をすることにより、建物の長寿命化を図る。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより、良好な景観を形成する。
LR1 エネルギー LED照明器具、潜熱回収型給湯器の採用によりエネルギー消費量の削減を図る。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン(A種1H)断熱材の採用によりフロン材使用回避に努める。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量を削減するように努める。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される